

第 79 話〈御伺〉の要約と参考資料

第 79 話〈御伺〉の要約

1932（昭和 5）年初夏、土呂久の佐藤竹松さんは息子の修身の教科書のワラ打ちの挿し絵に 3 か所の誤りを見つけ、「農の実務にある者として不審がある」と、文部大臣あての「御伺」を書いて投函しました。2 年後、改訂された教科書から、その挿し絵は削除されました。

第 79 話〈御伺〉の参考資料

7 9 - 1 昭和初期の高千穂町の農村

「高千穂町史」P430 より

昭和初期の農村は豊作に恵まれ、生産量は大幅に上昇しているが、昭和 5 年（1930 年）世界経済恐慌の余波を受け、米価をはじめ農産物価格は低落し、農産物価格と購入物資価格の差は非常に大きく、農家経済は極度に疲弊した。

この農業恐慌の救済対策としてうちだされたのが、農山漁村経済更生事業である。国はかかる政策をうちだしはしたものの、その実施についてはすべて地方財政の手にゆだねられたので、県において昭和 7 年 11 月経済更生課を新設すると共に、宮崎県農山漁村経済更生委員会を設立させ、農山漁村更生に対する救済の手をさしのべている。

7 9 - 2 土呂久の産業・生活（大正 15 年～昭和 10 年）

大正 15 年～昭和 10 年の和合会議事録より

大正 15 年 3 月 9 日

一、入営兵佐藤市作氏救助ニ関スル件

和合会青年支部、在郷軍人班協力シテ各戸一人役宛ツ農繁期ニカセイコト

大正 15 年 5 月 26 日

一、此際社会不況ノ折柄飲食節約ノ件

右ノ件ニ付テハオ互イニ節約ス可事

昭和 2 年 2 月 25 日

二、小学児童出席奨励ニ関スル件

児童ノ出席甚ダ不良ニテ欠席者ハ最モ良シカラザルモ第一父兄ノ奨励ガ先立チ

督励スルコトニツトメザル可カラズ

昭和 2 年 2 月 25 日

七、肥料購入ノ件

共同購入ヲ本春ヨリ行フ事ニシ宮崎地方視察ノ際委員ヲ選ビ延岡ニテ特約ノ口
渉ヲナスコトニ決ス

昭和2年5月25日

一、台所品評会実施ノ件

台所改良ノ目約ヲ以テ来ル9月下旬品評会ヲ実施スル事

昭和2年11月25日

一、学芸会ノ件

学芸会ハ来ル12月初旬ノ事ニ決定。但シ日曜日朝早くヨリノ事

昭和4年3月5日

一、就学ニ関スル件

出席歩合ヲ善良ナラシムル為本会ヨリ優勝旗ヲ拵与シテ各組ノ上級生徒ニ壹ケ
月壹ケ月ノ成績ヲ調べサセ学校ノ帳簿ト引合セ出席良好ナル組ニ其優勝旗ヲ授与
スル事。但シ高等科生ハ出席歩合ニ入レザル事

右費用ハ本会ヨリ約金5円位出費ノ事

昭和4年3月5日

一、牛馬ノ飼育管理ニ関スル件

各組ヘワクラーケ宛ツ拵^{こしら}エテ蹄切ヲナス事
常ニ牛馬ニ氣ヲ付ケテ飼育管理ヲ怠ラヌ事

昭和4年11月25日

一、入退営ニ関スル件

入退営ノ際ハ各自会費四括米、肴ハ持ち出シニテ見送り出迎ハ全部出場スル事。
多数入退営ノ際ハ此ノ限ニ非ズ

昭和5年2月22日

一、盆正月ニ贈答ニ関スル件

旧来ノ習慣ヲ捨テル事。但シ務メネバナラン處ニハ歳暮トシテ贈答スル事

一、入退営兵ニ関スル事

金縮ノ折柄ニ付当局者ヨリ言葉ノナイ處ニハ行カナイ事。但シ組合ハ全部ノ事

一、葬式ノ際香典揭示廃止ノ件

昭和5年5月22日

一、学芸会ニ関スル件

本年ヨリ中止ノ事

昭和6年2月28日

一、牛馬品評会場開設並ビニ公会堂新設ノ件

杉森ニ右公会堂ヲ青年主催ニテ新設スルニ付敷地開キニ各戸一日宛ツ出夫並ビ
ニ（カヤ、竹、縄）ヲ出ス事

昭和6年3月12日

一、学芸会ニ関スル件

会費ハ各戸金拾銭宛ツトシ其ノ準備ハ組ノ受持トス本年度ノ会場ハ惣見組ニ決定ス

昭和6年5月25日

一、産業組合奨励ノ件

右ハ組合長ニ於テ各役員ヲ召集シ役員会ヲ開キ如何ナル方法ニテ活動ス可キカヲ協議シ本年度ハ大イニ活動スル様決定ス

一、畜産奨励ノ件

畜産ナルモノハ農家ニトリテ最モ必要ニ付本年度ノ産業組合新事業トシテ村ノ品評会前ニ土呂久区ノ牛馬ノ品評会ヲ施行スル事

(但シ、当歳子ノミ費用ハ共有金ヨリ支出スル事)

一、養(鶏)組合設立ノ件

右ノ件ハ今少シ研究ノ結果会員全部ノ協議ヲ経テ設立スル事

一、納税完納ノ件

納税ハ国民ノ三大義務ノ一ニシテ最モ大切ナル事ナレバ幸本年ハ県村ヨリ表彰モ受ケタルニ依リ今後益々完納ニツトメラレル様決定ス

昭和7年11月26日

一、幼駒運動場設置ノ件

右設置ニ関シテハ各戸一人役宛ツ加勢シ各自ノ名義丈ケハ出ス事出来得ル者ハ日役ニテ出夫スル事ヲ決ス

一、公会堂出支供有金決定ノ件

公会堂建設費ニ金五拾円支出ノ事

昭和8年2月18日

一、産業実行組合事業ニ関スル件

婦人部ノ事業トシテ炭俵作製シテ一人ニ付キ式俵持出シ品評会ヲナス事。但シ、壹俵ハ組合ニ寄付シテ雑費ニ充タス事。会ハ来ル旧2月25日開催ノ事

昭和8年5月25日

一、牛馬品評会ニ関スル件

村品評会一カ月前実施ニ決ス

昭和8年11月26日

一、幼駒運動場寄付ニ関スル件

右運動場ニ和合会供有金ヨリ金五拾円ヲ寄付スル事。

但シ、昭和8年5月ノ總會ノ際支出ノ事

(*「和合会雑費」という帳面に、「昭和9年5月25日 支出 15.00 幼駒運動場寄付」の記載があるから、昭和8年は昭和9年の誤りだと思われる)

一、牛馬墓地ニ関スル件

死亡牛馬 1 頭当金拾銭宛ツ地主ニ支払フ事

一、牛馬品評会ニ関スル件

品評会ニハ特別ノ事情ナキ限り全部出品ノ事。但シ、生後 3 カ月以上ノ牛馬ノ事トス

昭和 9 年 3 月 9 日

一、牛馬品評会場ノ件

右品評会ハ当分ノ間幼駒運動場ニテ行ヒ授与式丈ハ公会堂ニテ施行ス可ク決定ス

一、牛馬墓地ノ件

昭和 8 年度以後死亡シタル牛馬 1 頭当金拾銭宛ツ地主ニ支払フ事ヲ約ス

昭和 10 年 2 月 27 日

一、土呂久部落消防夫設置ノ件

右ハ砦山ニモ交照シ寄付ヲアオギ出来得ル丈早メニ設置ノ事

昭和 10 年 11 月 25 日

一、野菜販売ノ件

野菜ノ売行キ非常ニ多イタメ今後充分作り方ヲ研究シ薄利多売式ニスルヲ良シトス

7 9 - 3 和合会役員（昭和 5 年～昭和 10 年）

昭和 5 年～昭和 10 年の和合会議事録より

昭和 5 年 2 月 22 日

（但シ会長ハ満壺ケ年ト決定ス）

会長 佐藤三蔵

副会長 佐藤竹松

幹事 佐藤清八、佐藤藤太

評議員 佐藤三代士、黒木政喜、佐藤義雄、佐藤啓三郎、佐藤民蔵、小笠原利四郎

昭和 6 年 3 月 12 日

一、会長改選ノ件

佐藤助氏ニ決定ス

一、評議員改選ノ件

小笠原利四郎氏ニ決定ス

昭和 8 年 5 月 25 日

会長 佐藤助

副長 佐藤清八

会計 佐藤徹

幹事 佐藤藤太、佐藤十一郎

評議員 佐藤竹松、佐藤平作、佐藤嘉四郎、佐藤栄造、佐藤進、佐藤万蔵

79-5 直してほしい岩戸の言葉

岩戸尋常高等小学校「岩戸郷土読本」(発行年月日不明)

なほしてほしい岩戸のことば

日本の国民でありながら、所によって言葉がちがひ、又全くわけのわからない言葉さへあるのは、国民として大へん恥であります。私共の村、岩戸にもよその人に、わからぬよくない言葉がたくさんあります。一日も早く、この悪い言葉をなほして、正しい日本の言葉をつかへる人とならなければなりません。それが、私どもの岩戸村を、よその村とくらべて、恥かしくないりっぱな村とする事の一つであります。

岩戸のことば	正しいことば
わやく	たわむれ。じやうだん
こねだ	先日。このあひだ
ちよつぺん	物のいただき。てつぺん
いひあんぶえ	好都合。よいあんばい
すとごつ	うそ。いつはり
ほらくる	ころぶ
むぞがる	愛する。かはいがる
おらぶ	さけぶ。(叫ぶ)
やかむる	おさむる。しまふ
よんにゆ	たくさん
そりじやきこす	それだからこそ
やいや、いんにや	いひえ
やんがち	やがて
あんのぢゆう	よていどほり
せんぐり	じゆんじ。(順次)
きんねえ	きいろい
わが。やど。わじよ	汝。君。あなた
ぢやき	だから

79-6 文部大臣鳩山一郎殿

藤寺非宝さんから佐藤竹松さん宛て手紙

先日より病氣にて休んでみましたので、例の写真焼き付けが大変遅れました。昨日やっ

と焼いて見ましたが、薬品等の都合で満足に出来てみません。しかし大略がわかればいいのですから、これで十分かと思ひます。近いうちに、文面を書いて送りますから、あなた様の直筆で投函のほどねがひます。写真2葉封入して置きます。

昭和7年7月14日
佐藤竹松様

藤寺非宝

御伺

国定教科書修身尋常科第2学年ノ開巻第一「カウカウ」ノ挿絵ニ就キ農ノ実務ニ有之者トシテイササカ不審ノ儀有之

閣下ノ御聞届ケヲ得バ誠ニ有難キ仕合ハセニテ御無礼ヲモ省ミズ屈伸頓首御伺申上候
カノ老爺ノ草鞋作りニ就キ甚ダ目立ち申スモノハ左手ノ状態尋常ナラズ、俗ニ逆手ト申シ右手ニテ編ミ行クニ必ラズ互ヒニ衝突致シ到底仕事ハ不可能ニテ実務上甚ダ忌ムベキ恰好ニ御座候。左手ハ下ヨリ上ニ向ヒテ縄ノ杵ヲ把リ、グット腹部ニカヲコメテ引キツケ、右手ニ若干ノ藁ヲ持チテ編ミ行クヲ正当ト致シ候。而シテ又、カクノ如ク前半身相ツマリ居リテハ、仕事ハ甚ダシク窮屈ナルベク、ヤヤ仰向キ加減ニ反リテ杵ヲ持ツテ可ト致シ候。尚又カノ少女ノ藁打ちノ様子ヲ見ルニ、藁束ヲ一ヶ所ノミククリテ濡メシ打ツノ恰好ナルガ、コレニテハ必ラズ藁ノ茎四散シ、果テハ木槌ト台石ニテ寸々ニ打ち切ラルルニ至ルベク。カヤウノコト無之様元ノ方ヲ一ヶ所ククリ、又中央部ヲ柔カク尚一ヶ所ククリ濡メシ打ツヲ古来ヨリノ定法ト致シ候。

何卒右様ノ次第ニ候得者、委細御審鑑ノ程謹ミテ御願申上候

甚ダ御無礼ナガラ写真添付仕候、当地方ハ草鞋ノ編ミ板ハ使用仕ラズ、足掛ケ式ノ頗ル元始的ナルモノナレドモ、手工一般ノ様式ニ於テハ異ナラザルコトト信ジ候

昭和7年6月 日

宮崎県西臼杵郡岩戸村大字岩戸〇番地

平民 農 佐藤竹松 印

文部大臣

鳩山一郎閣下

79-7 修身教科書批判

川原一之「土呂久雑感 修身教科書批判」(「辺境の石文」P114~115)より

(*61-4と重複)

「お上の誤りをただすたあ、ひと昔前なら打ち首ものでねえかの」

周囲の懸念をよそに、土呂久の佐藤竹松さんが文部大臣鳩山一郎閣下にあてて御伺を立てたのは、昭和7年のことである。尋常小学校二学年用修身の教科書のさし絵に「不審

ノ儀有之」というのだ。

戦前の道徳教育を受けた人なら、覚えもあるろうか。この教科書の孝行の章は「オフサハ チヒサイ トキ カラ 子モリ ナド ニ ヤトワレテ、ウチ ノ クラシ ヲ タスケマシタ。(略) マタ チチ ガ ザウリ ヤ ワラヂ ヲ ツクル ソバ デ ワラ ヲ ウツテ テツダヒマシタ。……」とあって、子守や奉公に出て家を助ける孝行娘の手本が示してある。さし絵には、草履を編む父と、そのかたわらでワラを打つ娘の姿が描いてある。

草履づくりの名手だった竹松さんは、息子の教科書のこのさし絵に看過できない誤りを見つけ、文部大臣へ直訴に及んだ。竹松さんの没後6年たった今年の夏、そのときの御伺の下書きが発見された。

それによると、さし絵には次のような不審の個所があった。

第一に、草履を編むとき左手は下から上に向けるものだが、絵では逆手になっている。第二に、仰向きかげんに上体をそらしてワラをしめるのが正常で、絵のように背筋を伸ばしては腹に力が入らない。こうした姿勢では「到底仕事ハ不可能ニテ実務上甚ダ忌ムベキ恰好ニ御座候」。第三に、娘が打っているワラ束は古来より三か所くくるのが定法なのに、絵では一か所しかくくっていない。これでは、ワラの茎が「寸々ニ打ち切ラルルニ至ル」というのだ。その実証のために、竹松さん実演の写真も添付した。

当時、草履づくりは農家の重要な日課だった。「たかがさし絵」といって、誤りを見逃ごすわけにいかない。いかに孝行に励もうとも、いいかげんな作法を覚えられたのでは、親としても迷惑だ。(略)

昭和9年の修身教科書改訂のとき、問題のさし絵は別の絵に取り替えられた。筋の通った竹松さんの主張が、文部省を動かしたようである。お上の誤りを許さない土呂久の民の心意気は、その後も竹松さんらを中心とする鉅毒反対の闘いに、伝統として貫かれていった。

79-8 草履づくり

佐藤仲治さんの話 (1978年9月9日聴取)

昔は毎日、草履を作りよった。5キロの道を草履をはいて学校まで通いよった。2日も踏めば成績はいいとですわ。小学校3年ぐらいから草履を自分で作りよったな。1回藁をたたくと3足分(6個)はでくる。いっぺん叩けば二晩、三晩はつくるるですわ。毎晩叩くこたあねえですわ。残った藁はしっかりくくって、床下に入れとくとですわね。湿気も乾燥もこんで、そのまま使われよった。学校近くに5銭か10銭で農家が売ることがあるですわね。10足も20足もさがっちゃって、草履がすれてはけんごつなつたときは買うとですわね。

昔は足半だったけね。祭りのときに草履を作ってもらった。女の子のおるとこは、

体裁よう友禅の柄の着物の古いのを見つけて、赤と紫をまぜて緒にして、緒を布で巻く。美しいでしょうが、「おしゃれ」ですよ。ほんの体裁だけで。

ワラジはすその方のつくりがちがう。旅行するときにはワラジばかり。一足はいて、二足ばかり背中にかかるうて。子どものころ学校行くのに、雪が 10 センチ～20 センチ積もる。ワラジをはいて、行くとき一足、帰りに一足。そうせんと、濡れて冷たいでしょうが。足袋のはきかえを持って行って、行きにぬれたのはそのまま持って帰って、洗濯して乾かして……。

佐藤数夫さんと佐藤ミキさんの話（1978年9月10日聴取）

数夫 ワラ草履は大切な履物やからよ。年に2回くらい岩戸のお祭り（9月と5月）に、じいちゃんから作ってもらうとがワラ草履。「祭りじょうり」というて丁寧を作る。緒の方に布（きれ）を巻きつけよった。ふつう履くのが足半。足半は山ではいたり、庭で履く。草履はほとんど外出用。町に行くとき……。昔は「麻ウラ」というて、立派な履物もありよった。機械で作ったんでしょうが、高うて買えんとです。ワラ草履がふつうやったですわ。たいがいなとこ行くには。野良仕事なんかも、地下足袋が普及してないから、ほとんど素足で足半はいて行きよった。あの頃はけがもせんし。

ミキ 尻と前とあとになるところに麻を入れよった。学校で学級に30人おると、4、5人がズックをはいて来る子がおった。町の子どもとか、都会から転校して来た子どもとか。学校の行き戻り、雨が降ったときは「サバを打つ（泥をはねあげる）」。尻まで泥をはねあげる。

数夫 雨が降ったときは、脇の下の帯に草履を通してぶらさげて、裸足よ。草履はいとつたら、サバをはね上げるでしょう。

ミキ 下駄ども、はいて行くことは全然なかった。

数夫 ウサギ道のような道を通学しよったから。